

消 防 費

・消防費

常 備 消 防 費

総 務 課

(1) 乙訓消防組合

乙訓消防組合に対し、分担金を負担した。 365,352,000 円

非 常 備 消 防 費

総 務 課

(1) 消防団は郷土愛護の精神に基づき、あらゆる災害に対処するため、団長以下一致団結し、防火防災活動を行った。

事 業 名	実施年月日	参加者数	場 所
初級団員教養訓練	R6.5.19	32 人	大山崎消防署名神高速道路高架下訓練場
大山崎町水防訓練	R6.6.2	26 人	大山崎町大山崎五畝割地内
ポンプ車操法訓練	R6.6.19～8.21 15日間	330 人	大山崎小学校グラウンド
乙訓支部消防操法合同訓練	R6.7.20	27 人	長岡第十小学校グラウンド
ポンプ車操法訓練町長・議長激励	R6.7.28	28 人	大山崎小学校グラウンド
乙訓支部消防操法錬成会	R6.8.18	27 人	長岡第十小学校グラウンド
京都府消防操法大会	R6.8.25	30 人	京都府立丹波自然運動公園
幹部教養訓練	R6.10.27	27 人	大山崎消防署名神高速道路高架下訓練場
活性化事業	R6.10.27	15 人	キョーイチアミューズメントパーク吉祥院
秋の火災予防運動に伴う広報パトロール	R6.11.9～14 6日間	延べ46 人	大山崎町管内
年末特別警戒	R6.12.25～30 6日間	延べ152 人	大山崎町管内(各分団詰所)
大山崎町消防出初式	R7.1.12	42 人	大山崎町体育館
春の火災予防運動に伴う広報パトロール	R7.3.1～6 6日間	延べ34 人	大山崎町管内
乙訓二市一町総合消防訓練	R7.3.2	10 人	椿本チエイン長岡京工場

(2) 消防団は火災予防にも積極的に取り組むとともに、府立消防学校に団員を派遣し、各種の教育を実施した。

また、研修のため管外へも団員を派遣し、情報収集や見聞を広め、団員の資質向上に努めた。

○京都府立消防学校派遣研修

消防団員特別教育操法指導科	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
---------------	----	----	------------------

消防団員専科教育警防科	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
-------------	----	----	------------------

消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程	1日	2人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
---------------------	----	----	------------------

○京都府消防協会乙訓支部管外研修	2日	3人	愛知県
------------------	----	----	-----

(3) その他

消防団は、毎月自主訓練を行っているほか、消防車両を常時出動可能な状態にしておくため機関点検を行う等、万一の災害に備えている。

消 防 施 設 費

総 務 課

(1) 水道事業会計負担金

3,636,000 円

消火栓等維持費

公設水利の維持管理費用

消火栓 245箇所

防火水そう 58箇所

}

303箇所×1,000円×12ヶ月

水 防 費

総 務 課

(1) 水防出動に備え、水防活動に必要な資器材を購入した。

水防活動用資器材(土のう袋、災害対応用砂他)

174,080 円

(2) 桂川・小畑川水防事務組合

京都市・長岡京市・大山崎町で構成する水防事務組合の負担金

318,000 円

水防事務組合水防訓練 訓練日:R6.5.12 場所:淀川右岸淀大橋下流河川敷

〈資料1〉 火災概要(過去3年間)

区分 \ 年別		令和4年	令和5年	令和6年	昨年との比較増(減▲)
火災件数	計	5	8	5	▲3
	建物	2	4	2	▲2
	車両	2	3	2	▲1
	林野	0	0	0	0
	その他	1	1	1	0
建物焼損床面積(㎡)		0	88	144	56
建物焼損表面積(㎡)		0	13	45	32
林野焼損面積(a)		0	0	0	0
焼損棟数	全焼	0	1	2	1
	半焼	0	0	0	0
	部分焼	0	1	2	1
	ぼや	2	2	3	1
り災人員		5	5	10	5
り災世帯	全損	0	1	1	0
	半損	0	0	0	0
	小損	2	7	3	▲4

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

区分 \ 年別		令和4年	令和5年	令和6年	昨年との比較増(減▲)
死傷者	死者	0	0	0	0
	負傷者	0	0	1	1
損害額(千円)		1,770	34,949	27,951	▲6,998
主な火災原因	たばこ	0	1	1	0
	こんろ	1	0	0	0
	火入れ	0	0	0	0
	たき火	0	0	0	0
	火あそび	0	0	0	0
	こたつ	0	0	0	0
	電気機器	0	0	0	0
	配線器具	1	0	0	0
	放火・放火の疑い	0	0	0	0
	その他	3	7	3	▲4
	不明	0	0	1	1
	計	5	8	5	▲3

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

〈資料2〉救急活動概要(過去3年間)

区分 \ 年別		令和4年	令和5年	令和6年	昨年との比較増(減▲)
出 動 件 数		1,382	1,459	1,406	▲53
取 扱 件 数		1,245	1,343	1,338	▲5
事 故 別	交 通 事 故	87	103	79	▲24
	急 病	910	903	958	55
	一 般	216	257	217	▲40
	そ の 他	169	196	152	▲44
救 護 人 員		1,253	1,359	1,345	▲14

事故別の出動状況をみると急病が958件と最も多く、全体の約 68%を占めた。

(乙訓消防組合統計より)

大山崎消防署が出動した件数で、町外への出動を含む。

〈資料3〉消防団の出動状況(令和6年度中)

区分 種別		計	災 害 出 動				演 習 ・ 訓 練	広 報 活 動	研 修 ・ 会 議	機 関 点 検	特 別 警 戒	そ の 他
			火 災	う ち 林 野	捜 索 活 動	風 水 害 等 の 災 害						
消防団	出 動 回 数	109	1	0	0	0	23	12	20	36	9	8
	出 動 延 人 員	1,289	32	0	0	0	548	80	109	270	161	89

消防団員は、火災、その他の災害による被害を最小限にとどめるため、専門知識の習得、技術の練磨を重ねた。

1. 災害対策(警戒)本部設置状況

各種気象警報等の発表・被害の発生に伴い、災害対策(警戒)本部を計1回設置した。

設 置 日	事 象	避難情報など
令和6年11月2日 (土)	11月2日14時03分 大雨警報(浸水害)発表 災害警戒本部設置 11月2日16時30分 大雨警報(浸水害)解除 ・災害警戒本部閉鎖	

2. 防災パトロール

大山崎町地域防災計画に基づき、出水期を迎えるにあたり、災害時に危険が予想される箇所の総点検を実施し、防災上必要な対策を検討し、万全を期すことを目的に実施した。

○実施日:令和6年5月9日(木) ○参加者数:27名

○パトロール箇所:仏生田給水施設、早稲田急傾斜地

3. 自主防災組織の支援

自主防災組織の活動を支援するため、自主防災活動補助金とコミュニティ助成事業補助金を支出した。

○自主防災活動補助金:418,065円(計8団体)

○コミュニティ助成事業補助金:1,145,034円(計9団体)

4. 防災訓練(中止)

住民の「自助」「共助」の意識向上と、地域防災力の認識の向上を目指すことを目的とし、大山崎地域住民を対象にした災害発生時の初期対応訓練及び防災フェア(関係機関によるブース、講演会、展示訓練)を2月9日(日)に予定していたが、訓練当日は、積雪及び降雪が見込まれたため中止した。

5. 防災資機材等の整備

備蓄用の粉ミルク、アルファ化米、レトルト食品、衛生用品(生理用品・子ども用おむつ等)を調達し避難所に配備した。

6. 防災啓発の実施

○出前講座:防災に関する出前講座を計4回実施し、約130名の方が受講した。

○防災伝道師:防災活動の活性化に寄与する人材育成を目的とした講座を2日間の日程(令和6年11月16日(土)及び30日(土))で実施し、新たに7名の方を大山崎町防災伝道師として認定した。

○広報:4月号から12回にわたり「広報おおやまざき」に防災記事を掲載し、住民の防災意識の高揚を図った。

○防災備蓄食料の有効活用:水や食料などの備蓄の必要性を考えていただくため、町内の小中学校や保育所、災伝道師養成講座等で賞味期限前の備蓄食料を提供した。

